



Title	新年のごあいさつ
Author(s)	久多里, 文也; 高山, 佳洋; 辻, 隆司 他
Citation	makoto. 2013, 161, p. 2-5
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/85690
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

新年のごあいさつ



一般財団法人 大阪防疫協会

理事長 久多里 文 也

新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、何かとご指導、ご鞭撻賜りまして有難うございました。

本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、当協会は、昭和22年5月15日（1947年）に設立され、以来、多くの公益活動と収益事業を通じて皆様方より温かいご支援、ご指導を頂きまして昨年5月に65周年を迎えることが出来ました。65年前といいますと、衛生状態が頓に悪化し、発疹チフス、赤痢、日本脳炎、コレラ等様々な伝染病（感染症）が猛威を振るっていた戦後の混乱期に設立され、設立当初より、大阪府・市の防疫施策に協力し、感染症並びに公衆衛生の業務を通じて文化の発展に寄与してまいりました。

公益法人制度改革による一般財団法人移行後は、公益事業で新たに、防疫に関する相談事業（ワクチン等に関する相談、ネズミ・衛生害虫に関する相談）、防疫用国有ワクチンの備蓄事業（緊急時の国有ワクチンの供給）を加えることにより、皆様方には、より一層身近な存在となりました。

私どもは、皆様方より頂いた信頼を大切に致しまして、人々の健康で快適な暮らしに奉仕する公益法人設立当初の目的の実現に向け、また、多様化する時代のニーズにお応えするために、技術者集団として高いレベルを保ち続け、これまで以上に社会に貢献すべく努力重ね、一層の充実を図っていく所存でございますので、何卒、今後とも、ご支援、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

今年が皆様方にとりまして良い年となりますことを祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ



大阪府健康医療部長

高 山 佳 洋

新年あけましておめでとうございます。

一般財団法人大阪防疫協会におかれましては、この度の公益法人制度改革に伴い、新体制への移行を果たされ、新法人移行後の心機一転及び一層の御発展をお祈り申し上げますとともに、日頃から本府の健康医療行政に対して格別の御支援、御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、昨年は、国が策定した麻しん排除計画の最終年であったため、本府においても各市町村等に対し、予防接種率の向上に向けた対策強化を依頼するなどの取り組みを行ってまいりましたが、関西圏を中心に、主に若年層で風しんが流行するなど、引き続き対応が求められているところです。

一方で、定期接種化されているポリオワクチンについて、これまで定期接種で使用されてきた生ワクチンに代え、昨年11月より3種混合ワクチンに不活化ワクチンを追加した4種混合ワクチンが導入されました。更に、今年の4月からは子宮頸がん予防（HPV）・ヒブ（インフルエンザ菌b型）・小児用肺炎球菌の3ワクチンの定期接種化が予定され、国においてその円滑な導入に向けて準備が進められており、予防接種をとりまく状況は大きく変わろうとしています。

こうした状況下において、本府では、今後も麻しん排除に向けた取り組みを継続していくとともに、予防接種における関係機関等との連携を強化し、府民に安全・安心を提供できるよう一層努めてまいります。

また本年は、新型インフルエンザ等対策特別措置法が施行され、全国的に体制の強化が図られることとなっております。

貴協会におかれましては、これまで培ってこられたワクチンの備蓄・供給やネズミ・昆虫等の防除等、公衆衛生に関する豊富な経験・知識や高度な技術をいかんなく発揮され、今後も公衆衛生の向上に向けた取り組みや御活躍をされることを大いに期待しております。

結びに貴協会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝をお祈りいたしまして新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ



大阪市健康局
健康推進部
生活衛生担当部長

辻 隆 司

あけましておめでとうございます。
一般財団法人大阪防疫協会の皆様方にはお健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

旧年中は、本市保健衛生行政をはじめ市政の各般にわたり格段のご理解、ご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、本市では、「成長は広域行政、安心は基礎自治体」という考え方を基本に、大阪にふさわしい大都市制度の実現を見据え、基礎自治行政について、現在の本市の下で「ニア・イズ・ベター（補完性・近接性の原理）」を徹底的に追及した新しい住民自治と区政運営の実現、ムダを徹底的に排除した効果的・効率的な行財政運営をめざし、昨年7月に「市政改革プラン」を策定し、本プランに基づき、着実かつ、スピード感をもって、市政改革の推進を図っているところです。

また、対外的には世界的な創造都市に向けた観光・国際交流・文化・スポーツについて「民が主役、行政はサポート役」との基本的な考え方のもと世界が憧れる都市の魅力を創造し、世界中から人、モノ、投資等を呼び込む強い大阪の実現を目指しています。

しかし、ヒト、モノの流通が盛んになるにつれ、東南アジアを中心に発生している鳥インフルエンザや北アメリカ大陸で大流行しているウェストナイル熱などこれら人獣共通感染症の日本への感染域拡大が危惧されており

ます。
また、一昨年の東日本大震災をはじめ全国各地で地震、台風、竜巻など様々な災害が発生しており、本市でも昨年8月に記録的な集中豪雨による浸水被害を受けるなど、危機管理体制の充実強化がますます重要となっております。

貴協会の皆様方におかれましては、永年にわたり培ってこられた衛生害虫獣の防除・防疫対策や建築物の衛生管理に関する豊富な知識と経験、高度な技術を生かされ「全ての市民がすこやかでこころ豊かに生活できる活力あるまち・健康都市大阪の実現」に向けご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、一般財団法人大阪防疫協会の益々のご発展と会員の皆さまのご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、新年のごあいさつといたします。

新年のごあいさつ



堺市健康福祉局
健康部長

坂 口 廣 志

新年あけましておめでとうございます。

一般財団法人大阪防疫協会の皆様におかれましては、輝かしい平成25年の新春を迎えられ益々ご清栄のことと心からお慶び申し上げます。旧年中は本市保健衛生行政の推進にご理解とご協力を承り、心からお礼申し上げます。

さて、昨年は原子力発電所再稼働に関する電力供給問題、雇用問題等の暗い話題が続く中、京都大学山中伸弥教授がiPS細胞（人工多能性幹細胞）の研究においてノーベル医学・生理学賞を受賞され、再生医療の実現に道を開き、人々に希望を与えました。

本市では、市民・子ども・産業・まちが元気で、「未来へ飛躍する自由・自治都市堺」の実現に向けて、さまざまな取り組みを行っています。その一つとして、環境分野では、低炭素都市「クールシティ・堺」の実現に向け、温室効果ガス削減に向けた先駆的な取り組みを進めています。また、健康医療分野では、市民ニーズに即応し効率的な運営を行うために昨年4月に市立堺病院を地方独立行政法人化するとともに、大規模災害に備えた地域防災計画やハザードマップなどの危機管理体制の強化や公共施設の耐震化を進めています。

「健康都市・堺」の実現をめざした環境の確保のため、貴協会が有する豊富な知識、経験、高度な技術など、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、一般財団法人大阪防疫協会の益々のご発展と皆様方のご活躍とご健勝、そして本年が皆様にとりまして健康で幸多い一年となりますことを心よりお祈りいたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ



東大阪市健康部長

中 谷 恭 子

新年あけましておめでとうございます。

新春を迎え、一般財団法人大阪防疫協会の皆様方には、益々ご清栄のことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は、本市の保健衛生行政の推進につきまして格段のご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、衆議院解散、それに続く衆議院議員総選挙と慌しく年の瀬が過ぎ、消費税増税、脱原発、環太平洋戦略的経済連携協定等の是非が問われましたが、平成25年度の予算成立が例年より遅れる可能性も出てきており、国民生活への影響が懸念されるところです。

さて、一昨年に発生しました東日本大震災は大きな爪痕を残しました。被災地では、ハエや蚊の発生状況が平年並みに戻りつつある一方で、ネズミについては増加傾向にあると聞いております。被災地を取り巻く環境は、被災直後の急性期から刻々と変化しておりますが、防疫業務については、現在に至るまでの長期にわたり必要とされているところであり、その重要性を再認識したところです。

また、食品や飲料水等における放射性物質の汚染に対する国民の不安は未だ根強く残っております。とりわけ、廃棄物の処理については、国民全体で取り組んでいかなければならない大きな課題と言えます。本市は東南海・南海地震の防災対策推進地域の指定を受けております。不測の事態に備え、防災対策推進計画を策定しておりますが、改めて危機管理体制を再確認し、近隣の自治体や関係機関との連携強化を図り、災害に強い安全で安心なまちづくりに取り組んでまいります。

貴協会におかれましては、永年にわたり培ってこられた公衆衛生における豊富な知識と経験、高度な技術を遺憾なく発揮され、本市の保健衛生行政の推進に、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、一般財団法人大阪防疫協会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ



高槻市保健福祉部長

西 岡 博 史

新年明けましておめでとうございます。

新春を迎え、一般財団法人大阪防疫協会の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

旧年中は、本市の保健衛生行政の推進に格段のご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、東日本大震災の発生から早や2年が経とうとしておりますが、現在でも被災地への支援が行われており、一日も早い復旧・復興が望まれているところです。

近畿地方では、昨年8月に記録的な豪雨に見舞われ、本市においても、1時間当たり100ミリを超える集中豪雨となり、床上浸水を始め、多くの被害が発生しました。本市では、緊急に避難所を開設するとともに、浸水箇所の応急措置、罹災ごみの収集、被害家屋の消毒等の対応を行いました。このような災害時には、環境衛生の確保や感染症の予防が大きな課題となります。災害時に防疫活動や衛生管理の対策を円滑に実施するため、平時から備えを十分に講じておくことが重要であると強く認識しているところです。

一方、昨年9月には、福岡市において、介護施設に入所する女性がセアカゴケグモにかまれる事例が発生し、大きな話題となりました。本市においても市民の関心が高まり、市内各地域でセアカゴケグモがたびたび発見されています。また、新型インフルエンザの流行や、ウエストナイルウイルスの日本への侵入が、益々危惧されているところです。このような中であって、衛生害虫の防除や防疫対策は、生活環境を保全するために必要不可欠なものであります。

貴協会の皆様方が、永年培ってこられた防疫や環境衛生対策等に関する豊富な知識と高度な技術を遺憾なく発揮され、引き続き、本市の保健衛生行政の推進にご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝、ご多幸を心から祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ



豊中市健康福祉部長

長 内 繁 樹

新年あけましておめでとうございます。

新春を迎え、一般財団法人大阪防疫協会の皆様方には、益々ご清栄のことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は、本市保健衛生行政の推進にご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

東日本大震災より、2年を迎えようとしておりますが、未だ復興途上にあります。不自由な暮らしを余儀なくされている被災者の方々に、心よりお見舞い申し上げます。

さて、本市におきましては、平成14年度に「健康とよなか21」を策定し、健康づくりの推進に取り組んでまいりましたが、今年度は新たに「豊中市健康づくり計画」を策定し、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会の実現を目指すこととしております。

そのような中、本市は昨年4月1日に中核市へ移行し、保健衛生や社会福祉、環境保全など、多くの市民生活に身近な業務が大阪府から事務移譲されました。それに伴い、保健衛生行政の中核的役割を果たす保健所を開設し、感染症予防や食品衛生、環境衛生等に関する業務を開始いたしました。新たに豊中市保健所として、総合的に保健衛生行政を推進することにより、市民生活の安心・安全の確保を図ってまいります。

とりわけ環境衛生分野においては、水道施設の衛生確保、レジオネラ症対策、ねずみ・衛生害虫の駆除指導等、幅広い分野にわたる業務があり、市域の環境衛生の維持向上のために、環境衛生関係施設の監視指導に取り組んでまいります。

貴協会におかれましては、永年にわたり培ってこられた防疫や環境衛生対策に関する豊富な知識と経験、高度な技術をいかに発揮され、本市の保健衛生行政の推進に、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、一般財団法人大阪防疫協会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ



一般財団法人
阪大微生物病研究会

理事長 東 雍

新年明けましておめでとうございます。

皆様方には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、当財団のワクチン事業に対し、格別のご理解とご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、去年はロンドンオリンピックが開催され、日本選手たちの素晴らしい活躍は、おおいに日本を活気付けました。選手たちにとって2012年は大きな目標年であったと思いますが、日本の感染症対策においても去年はひとつの目標の年とされていました。

WHOでは、日本を含む西太平洋地域における麻疹排除の目標を2012年までと定め、日本では2008年MR定期接種の3期4期を新たに設けるなど麻疹対策に力を注いできました。その結果、麻疹報告数は2008年開始当初の25分の1にまで減少しました。しかし、残念ながら排除基準はあと一步のところまで達成できず、今後も継続的な接種強化が課題とされています。ただ、ここ数年での麻疹患者数の激減の事実は、予防接種が麻疹抑制に非常に効果的であることを証明し、感染症の抑制に対する予防接種の重要性を改めて実感いたしました。

また、昨年11月には当財団が予てより開発に取り組んでまいりました、弱毒ポリオウイルス株を用いた世界初の不活化4種混合ワクチン（製品名：テトラビック®皮下注シリンジ）が定期接種に導入されました。更に安全性が向上した4種混合ワクチンの実用化によって、生ポリオワクチンで問題とされていたワクチン関連麻痺の不安が解消され、また、複雑化した小児の定期接種スケジュールが少しでも緩和されることを期待しています。私ども阪大微研会、今後も皆様のニーズに応じた新たなワクチンの開発や高品質なワクチンの供給、そして市民講座の開催やホームページの充実などを通じて公衆衛生の向上に貢献できますよう一層努めてまいります。

最後になりましたが、貴協会のますますのご発展と皆様方のご活躍ご健勝を祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。